

結果の概要 中学校数学

全体的な傾向

- 昨年度課題がみられた問題とその類似問題との正答率を比較すると、若干の改善がみられる。しかし、その内容の定着度は依然として低い状況にある。
- 基礎的な計算問題の正答率が高い状況にある。一方で、理由を答える問題や、説明を記述する問題の正答率は低い状況にある。
- 問題文の内容を読み取り、それを数学的に見たり考えたりする力に課題がみられる。

1 出題のねらい

- ①昨年度の課題を受け、正答率が低かった問題、無答率の高かった問題について類似問題を出題し、その定着度をみた。
- ②昨年度までに診断できなかった内容について出題し、その定着度をみた。
- ③理由を答える問題、説明を記述する問題を出題し、思考力や自分の考えを表現する力をみた。
- ④具体的な事象に関する問題を出題し、事象を数理的に考察する力をみるとともに、生徒が「数学的な見方や考え方のよさ」を再確認できるよう工夫した。

2 学年別結果の概要

【第1学年】

内容領域	正答率
小6年 「数と計算」	51.2%
小6年 「量と測定」	61.4%
小6年 「図形」	59.2%
小6年 「数量関係」	71.1%
1年 「数と式」	67.0%

【第2学年】

内容領域	正答率
1年 「数と式」	60.4%
1年 「図形」	69.6%
1年 「数量関係」	59.5%
2年 「数と式」	63.0%

【第3学年】

内容領域	正答率
1年 「数と式」	87.0%
2年 「数と式」	57.8%
2年 「図形」	59.3%
2年 「数量関係」	54.3%
3年 「数と式」	58.3%

評価の観点	正答率 (%)		
	1年	2年	3年
数学への関心・意欲・態度	59.8	41.8	50.3
数学的な見方や考え方	53.6	54.7	55.7
数学的な表現・処理	69.0	65.8	64.9
数量、図形などについての知識・理解	64.9	62.9	47.9

3 今回のテスト結果からみた特徴

- 昨年度の課題である「分数の乗法」の問題（第1学年 $\boxed{7}$ ）では、立式及び計算の無答が減少し、改善の傾向がみられるものの、計算の意味理解については、依然として正答率が低い状況にある。
- 具体的な事象に関する問題処理では、「数学的な見方や考え方」が有効であることが多い。第1学年の「正の数・負の数」の問題（ $\boxed{3}$ (2)）では、「数学的な見方や考え方のよさ」を活かして解答できるかをみたが、正答率が低い状況にある。
- 第2学年では、基本的内容の定着度をみる目的でも類似問題を出題した。その中で具体的な事象から「比例する量」を判断する問題（ $\boxed{8}$ ）では、正答率が昨年を大きく下回り、課題がみられる。
- 第3学年の「数量、図形などについての知識・理解」に関する問題（ $\boxed{2}$ (1)、 $\boxed{4}$ 、 $\boxed{5}$ (2)、 $\boxed{8}$ (1)、 $\boxed{12}$ (1)）においては、正答率が低い状況にある。